

■ 多治見市立昭和小学校附属幼稚園

1 実態

3歳児 7名、4歳児 11名、5歳児 14名、全園児 32名(11月現在)である。本園では、6月に歯科医師による歯科検診を行った結果、むし歯が奥歯 4本 1名、前歯 2本 2名、癒合歯 1名、歯列不正 1名、不正咬合 1名である。むし歯は 31名中(6月在園児) 3名である。むし歯 3名のうち 2名は昨年度もむし歯があった。このような結果や、歯科医師より「今の時期は歯みがきを習慣づけることが大切である」と指導があったことから、歯みがきの大切さを知らせたり歯みがきを習慣づけたることに重点をおき、指導していくことにした。

2 ねらい

歯の大切さを知り、歯みがきの仕方を覚えたり習慣づけてたりして、口の中や歯をきれいにすることに意識がもてるようにする。また、園、家庭、園医歯科医師、歯科衛生士と連携を図り、口腔衛生の関心が高まるようにする。

3 実践

①集団指導

ア 実施時期 歯科指導 7月 12月 (年2回)



イ 内容

- ・保健センターの歯科衛生士による歯科指導を全園児実施。歯みがきの大切さを紙芝居で分かりやすく知らせる。また、歯の模型を使ってよく噛んで食べる大切さ、歯みがきの歌に合わせて実際に歯みがきをして歯のみがき方を指導してもらう。
- ・4、5歳児のみテスターを実施する。(結果は下記の表)

(Aきれいです B少し汚れています C汚れています Dひどく汚れています)

	A	B	C	D
4歳児	1人	4人	5人	0人
5歳児	1人	6人	6人	0人

欠席 1名

ウ 成果

- ・子ども達に興味関心が持てるような紙芝居での指導であつたため、歯みがきの大切さをより知ることができた。
- ・「ごしごしデンターマン」の曲に合わせて指導して頂き、歯みがきの方法を意識できるようになった。
- ・姿勢を保つことができない子がいた。よく噛むとむし歯や歯肉炎の予防につながる。そして、姿勢は噛む力につながるため、給食時、足が床に届かない子は土台を置くなどして工夫をするとういと指導を受けた。
- ・テスター結果を保護者に知らせることにより歯みがきに関心が高もてた。



②(1)個別指導

ア 実施時期 通年給食後

対象者数 全年齢

イ 内容

- ・毎日給食後各クラスでの歯みがき指導
 - 「ごしごしデンターマン」の曲に合わせて、歯みがきをする。
 - 椅子に座り、姿勢を意識して行う。
 - 担任が歯の模型を使ってみがき方を教えながら行う。



ウ 成果

- ・毎日行うことで、抵抗なく歯をみがけるようになった。
- ・「給食を食べたら歯を磨く」と習慣づいてきた。
- ・正しい歯のみがき方が身についてきた。
- ・姿勢を意識するようになってきた。

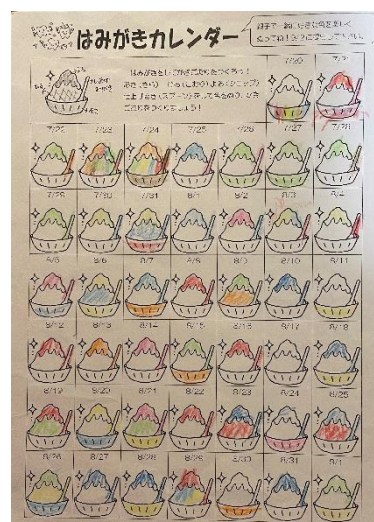
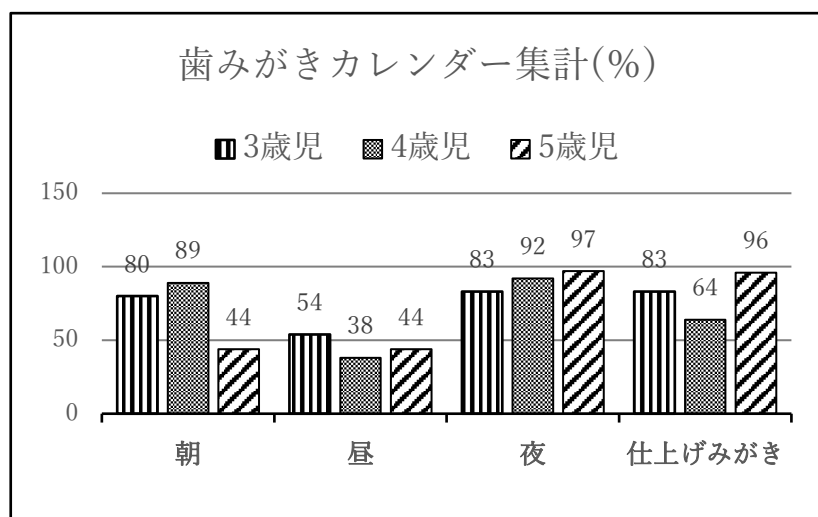
(2)個別指導

ア 実施時期 夏休み

対象者数 全年齢

イ 内容

- ・夏休み中家庭にて、毎日の歯みがき及び仕上げみがきが意識できるよう「はみがきカレンダー」を配布する。
- 歯をみがいたら、その日付のかき氷の絵に色を塗る。



ウ 成果

- ・歯みがきカレンダーを配布したことで、家庭にて歯みがきを意識することができた。
- ・夏休みの歯みがきでは昼食後に歯みがきをしない家庭が多いという実態を把握することができた。

③学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期 6月

対象者数 全年齢

保護者の参加の有無 無

イ 内容

園の歯科医による歯科検診(年に1回)

○むし歯、不正咬合、歯列不正、癒合歯、歯肉炎等の有無を確認する。

○むし歯、不正咬合等ある子は受診するよう保護者に伝える。

ウ 成果

- ・保護者に知らせるとすぐに受診し処置をすることができた。
- ・定期的に歯科医に行っている子やむし歯治療中の子もいたが、検診を行ったことにより、他の保護者も歯に関心がもてるようになってきた。

4 成果と課題

・成果

- 歯科衛生士の歯科指導を行ったことから、より歯の大切さや歯みがきに関心を持つことができた。また、テスターも行い、保護者も口腔衛生に関心をもつきっかけになった。
- 毎日の給食後の歯みがき時に、「歯ブラシはこうやって持つんだよ」と友達同士教え合う姿や、「きれいになった」と見せ合う姿もあった。自分だけでなく友達と一緒に取り組む姿がみられて良かった。
- 給食時、足が床につかない子は土台を置き、姿勢が保持できるようにしたため、姿勢を少し意識できるようになった。
- 長期休暇の夏休みに歯みがきカレンダーを配布したことで、親子で歯みがきを取り組み、関心がもつことができてよかった。
- 園医の歯科医、歯科衛生士、家庭と連携を図ったことで口腔衛生の関心が高まったと感じた。

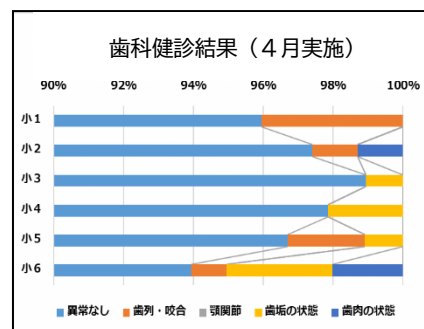
・課題

- テスターの結果、汚れがついている子が多いので、歯みがきの正しいみがき方を意識できるようにしていきたい。また、保護者へ仕上げみがきの大切さを周知したい。
- 子ども自身が姿勢を意識しよく噛んで食べることができるよう、継続して姿勢保持やよく噛んで食べることの大切さを知らせたい。家庭へも噛むことの大切さを知らせたい。
- 子どもがむし歯にならないよう、保護者に、おやつの内容、回数、時間等意識してもらえように取り組みたい。
- 夏休み集計結果より、家庭で昼食後にみがく子が少ないことが分かった。園では、給食後、歯みがきに取り組んでいるので、家庭においても取り組めるようにしたい。

■ 岐阜市立三輪南小学校

1 実態

4月の歯科健診の結果、歯垢の状態が相当付着、歯肉の状態が要精検の者が6年生で多かった。本校はコロナ禍を経て、希望者のみが給食後の歯みがきをしているが、学年が上がるごとに希望者は減っている。特に6年生になると、1日3回の歯みがきやデンタルフロスを使用した歯みがきをする児童が少ない。そこで、今年度は全校児童に歯の健康についての指導を行いながら、ハイリスクアプローチの対象として6年生に焦点をあて、指導を行うこととした。



また、給食時間の様子をみると、よくかんで食べる習慣ができていない児童の姿が目立った。5月に全校の保護者を対象に行ったアンケートでは「子どもによくかんで食べるようにいつも声をかけている」と回答した保護者は19%、「よくかむための食材を意識して食事に出している」と回答した保護者がわずか6%であった。そこで、よくかんで食べることの大切さを伝えることで、歯と口の健康につなげていきたいと考えた。

2 ねらい

- ・学校歯科医、養護教諭、栄養教諭などが連携し、それぞれの専門性を生かした指導を行うことで、児童の口腔環境の向上を目指す。
- ・児童が自分の口の中の状態を知ること、健康課題を見つけ、課題解決のための目標を各自が設定し、取り組むことができる姿を目指す。

3 実践

①集団指導

ア 実施時期：年間を通して実施 6月と11月を「かみかみ月間」と位置付けた。

イ 内容

(1) 給食を活用した指導

- ・かみごたえのある献立や、歯の健康によい献立を「かみかみ献立」として、給食時間の放送で紹介した。かみかみ献立の日は、よくかむことをより意識できるように、教室に掲示する盛付表に歯のマークを付けて配布した。
- ・11月8日のいい歯の日にあわせて、学校独自献立「みんなでかみかみチャレンジ！」を実施した。かみごたえのある給食用のグミを献立に取り入れ、実際に30回かんでみることに挑戦した。
- ・よくかんで食べるためのポイントや、給食のかみかみ献立のレシピを載せた食育だより特別号を配信し、保護者への啓発を行った。



(2) 学活の時間の指導

「おやつのはみつをみてみよう」(3年生対象)

事前におやつのととり方についてのアンケートを実施した。食べる量や時間を決めず、だらだら食べ続けている児童の実態があったため、おやつに含まれる量の砂糖や油を見せ、望ましいおやつや量や歯によいおやつのととり方を伝えた。ワークシートに保護者からのコメント欄を設けることで、家庭での話題となるよう工夫した。

★おやつのはみつ

- ① しるい をえらびます！ ② しるい を決めます！
③ おやつ を決めます！ ④ おやつ をわすれませんか！

★わかったことやかんどうを書きましょう！今まで自分が食べていたおやつのことをふりかえりながら、書けるとすてきですね！

わたしは毎日おやつを食べた後うがいをしていたので今日から毎日おやつを食べた後うがいはみんがきとします。おやつがすきだけどちゃんと20まいだけ食べます。

「よくかんで食べよう」(4年生対象)

事前に行ったアンケート結果から、よくかんで食べることは大切だと思う気持ちはあるものの、行動の変容には至っていない児童が多いことがわかった。実際に米飯を5回、20回とかみ比べたときの状態について「だ液の量」「味の変化」「粒の状態」「飲み込みやすさ」の変化を感じ取ることで、かむことは全身の健康にいい影響があることを体験から学び、行動変容につなげることを目指した。



今日の授業を通して、これから気づいたことを書こう！

今日の授業を通して感じたこと
噛むことはあごがよくなるなどの口だけでなく、太り過ぎを防いだりという全身関係あると知ってびっくりしました。

学校の授業で、よくかんで食べるためにどんな工夫ができるかな？
はいせんをはやくして食べる時間をふやしたり、かむことを意識していつて習慣にしたいです

「歯肉炎を予防しよう」(6年生対象)

歯肉炎の成り立ちや、体に及ぼす影響について指導した。4月の歯科検診の結果から、歯垢、歯肉、CO、C、ZSの有無を自分で調べ、歯肉の観察を行った。さらに、11月の歯科検診に向けての目標を立て、デンタルフロスを使った歯みがきに挑戦し、口の中の変容を確かめる機会とした。

(3) 歯と口の健康指導

- ・夏休みカラーテスト、歯みがきカレンダー、歯肉炎チェックシート(全校対象)の取組

親子で口の中を確認し、歯や歯肉の健康を意識できる機会とした。

(4) 委員会活動

- ・給食委員会「よくかんで食べようキャンペーン」の実施
よくかむことの効果について調べ、クイズを作成して給食時間に放送した。
- ・保健委員会「めざせ！むし歯ゼロキャンペーン」の実施
歯に関するポスターや、クイズを作成し掲示した。給食時間のテレビ放送では、歯のみがき方のポイントを学年ごとにキーワード化し、実演した。



④ 4月の歯科検診結果 当てはまるものがあれば○をつけましょう。

歯垢の状態 (1か2)	歯肉の状態 (1か2)	むし歯に罹りかけ (CO)	むし歯 (C)	歯石 (ZS)
○	○			

⑤ 7日間の目標
毎日デンタルフロスを使って歯と歯の間までみがく。

⑥ 1日3回の歯みがきにチャレンジ！歯みがきの回数に合わせて色めりしよう。

	10/31(木)	11/1(金)	2(土)	3(日)	4(月)	5(火)	6(水)
1回 黄色	●	●	●	●	●	●	●
2回 黄色							
3回 黄色							

■ 10月の歯科検診結果

項目	歯垢	歯肉	CO	C	ZS	その他
10/31	○	○				
11/1	○	○				
2	○	○				
3	○	○				
4	○	○				
5	○	○				
6	○	○				

4月より口の中が良くなったね！

■ 学校歯科医の岡田先生からアドバイス

- ・素晴らしい！この調子！
- ・あと一歩！ここをがんばろう！
- ・歯科医院で治療をしたらおう！

ウ 成果

養護教諭と栄養教諭がそれぞれの強みを生かして意図的に働きかけることで、よくかんで食べることや、丁寧な歯みがきをすることを意識づけることができた。

②個別指導

ア 実施時期：11月7日（木） 対象者数：6年生 99名

イ 内容

ハイリスク対象児童が多い6年生に、2回目の歯科検診を実施。健診後に養護教諭が「歯みがき頑張り週間」のプリントをもとに、みがき方のポイントを指導し、4月の歯科健診と比較して改善した点を価値づけた。

ウ 成果

毎日の歯みがきの仕方を変えることで、口腔環境が改善することを実感でき、今後の健康づくりの意欲につながった。

③学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期、対象者数、保護者の参加の有無

(1)個別指導の実施:11月7日（木） 6年生 99名対象

(2)学校歯科医さんの質問コーナーの実施:11月下旬

全校児童対象 保護者の参加有

イ 内容

(1)11月に実施した歯科検診で、よくみがけている児童には励ましを、みがき足りない、受診が必要な児童には、手鏡で一緒に口の中を見ながら、具体的なみがき方の指導を行った。

(2)学校歯科医の先生に聞いてみたい質問を、保健委員会で募集した。家庭に持ち持ち帰り、保護者と一緒に考えることで、歯と口の健康づくりへの関心が高まるようにした。回答は保健室前に掲示し、保健日より保護者へ配信した。

ウ 成果

学校歯科医から直接児童に声をかけてもらうことで、専門的な観点からの指導ができ、児童のむし歯や歯肉炎を予防しようという意識が高まった。

4 成果と課題

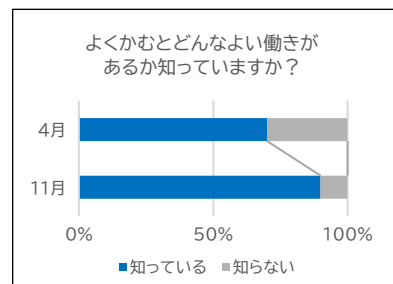
○児童がそれぞれの歯と口の健康課題に気づき、自分にできる実践を考えて取り組むことができた。その結果、4月の歯科検診の結果と比べて、多くの6年生のハイリスク対象児童の口腔状態が改善した。

歯垢	2 → 1	3名
	1 → 0	19名
	1 → 1	1名

歯肉	2 → 0	2名
	1 → 0	17名
	1 → 1	4名

○ 11月に実施した事後アンケートでは、かむことの効果について理解している児童が増えた。また、全校児童の96%が、以前よりたくさんかんで食べるようになったと回答しており、行動変容につなげることができた。

●歯と口の健康づくりには、継続的な指導が必要になる。発達段階に応じた内容で計画を立て、年間を通して指導を続けていく必要がある。



■ 下呂市立萩原南中学校

1 実態

歯科検診を受けた生徒 194 名のうち、未処置歯生徒は 2.6%（5 名）、「歯垢の状態 2」9.3%（18 名）、「歯肉の状態 2」13.9%（27 名）であった。特に 3 年生に、要受診者が多い。また、定期検診する生徒もいるが、受診に至らない生徒もいる。学年別にあげると、下記のとおりである。

未処置歯（名）	乳歯	永久歯	計
1 年生	1	0	1
2 年生	2	1	3
3 年生	0	1	1

歯垢の状態（名）	0	1	2
1 年生	1 7	3 6	3
2 年生	2 2	4 7	8
3 年生	2 7	2 7	7

歯肉の状態（名）	0	1	2
1 年生	3 2	2 0	4
2 年生	3 5	3 4	8
3 年生	2 2	2 4	1 5

2 ねらい

自分の口腔状態を把握し、歯肉炎を予防するために、自分の歯並びにあった歯のみがき方を理解するとともに、普段の自分の生活を見直す機会とする。

3 実践

①－1 集団指導

- ア 実施時期 10月16日 3年生対象
 イ 内容 歯肉炎の予防（歯科衛生士による）
 ウ 成果 生徒感想より抜粋

- ・歯みがきには順序や当て方にもポイントがあることがわかったので これからに活かしていきたい。
- ・歯みがきはいつもできているけれど、なんとなくしかできていないことを感じたので、教えてもらったことを丁寧に実行していきたい。
- ・歯肉炎の原因や、対策について理解することができた。
- ・最近雑になりつつあったから、今回見直して、またしっかりと歯みがきへの意識が高くなりました。ありがとうございます。
- ・いつも固めの歯ブラシを使っていたので、普通の硬さで優しくみがくことを意識したいです。



- ・今までなんとなく長くみがいていたけれど、模型を使って丁寧に説明して下さったおかげで、正しいみがき方を知ることができたので意識してみがきます。
- ・私は歯列矯正をしていてすごく歯がみがきにくいので、とくに歯ブラシの当て方を意識していきたいです。歯みがきは毎日3～4回はするけど、全部を丁寧にみがけているかは分からないので、今日習ったことを意識しながらみがき、健康な歯を維持していきたいです。

①—2 集団指導

- ア 実施時期 通年（毎週金曜日） 全校生徒
- イ 内容 フッ化物洗口
毎週金曜日（朝の会前）
入学時に、フッ化物洗口の同意書の提出をふまえて、同意のあった生徒のみ実施



ウ 成果

- ・小学校から継続してフッ化物洗口に取り組んでいるため、抵抗なく実施することができている。

②個別指導

- ア 実施時期、6月 対象者数（1年生7名、2年生13名、3年生17名）
- イ 内容 対象者を学年毎の小グループに分け、実施
- ①口の中の状態（ミュータンス菌）と、自分の結果をふまえて
 - ②健康な歯肉と歯肉炎の状態の比較（出血、三角、ひきしまっているなど）
 - ③歯ブラシの当て方、みがく順序
 - ④早めの歯科受診の必要性

＊小学生歯みがき大会DVDを参考に実施。

ウ 成果

- ・短い時間の中での指導ではあったが、早めに歯科受診する生徒がみられた。
- ・永久歯のむし歯があった生徒には、根気良く声をかけ続け、夏季休業中には受診することができた。その結果、秋の歯科健診結果では、未処置歯のある生徒は0名となった。

③学校歯科医における保健に関する指導

- ア 実施時期、10月17日 3年生対象者
- イ 内容 秋の歯科検診
- ウ 成果

- ・ブラッシング指導後に歯科検診を計画したこと、また、歯科検診の項目を歯垢の状態・歯肉の状態・C・C Oを中心の健診としたことで、検診時間を有効に使うことができた。
- ・前回よりもみがけているというコメントを受け、保健委員会の地道な活動が繋がってきた。



④栄養教諭における保健に関する指導

- ア 実施時期 * 7月の給食指導時に3年生対象
11月の給食指導時に2年生対象
- イ 内容 噛むことの8大効用
良い歯のレシピ



ウ 成果

- ・全校生徒が良い歯のレシピを持ち帰りできるようにしたことで、レシピを見ている生徒がみられた。
- ・今回の機会を受け指導を依頼したところ、すぐに3年生に対して実施していただく事ができ、栄養教諭との連携をとることができた。
- * 計画では2年生のみ指導であったが、3年生も対象とした。



⑤生徒保健委員会

- ア 実施時期 イ 内容

- ①7月 歯みがきのポスターを作製
(ポイント：みがく場所、話さない、離れて)
- ②8月 歯みがきアンケート
(歯みがき回数、使用している歯みがき粉)
- ③9月 歯みがきアンケート集計結果、春の歯科健診結果(歯垢、歯肉)をグラフでまとめ、保健委員が各クラスで発表し、意識化へつないだ。
発表した内容を掲示した。
- ④10月 保健委員会で、歯みがきに関する質問をまとめ、秋の歯科健診時に、学校歯科医へ質問する機会を設けた。⇒質問内容と今後については、まとめて、全校へ発信する。
- ⑤11月 8日を含む2週間に歯みがきキャンペーンを実施した。意識して歯みがきに取り組むように、保健委員で啓発し、自分の歯と口は自分で守るという自主実行へつなげる手立てとした。
 - 黙って歯をみがく。
 - 座ってみがく
 - 3分間
 - 歯みがきの順番
 - * 歯をみがいたら、保健委員へ報告し、保健委員が名簿にチェックする。
 - * 学級全員がみがいた日数を集計し、結果を放送で伝える。
- ⑥12月 秋の歯科健診結果と学校歯科医への質問の回答をまとめ、全校へ発信する。



ウ 成果

- ・ 8月の生徒へのアンケート結果や春の歯科健診結果から、よくない結果を目にし、保健委員会で取り組もうとする生徒の意識の変化がみられた。
- ・ 歯と口の健康は、自分で観察し自分で実践することができる病気の予防ということを学ぶことができた。
- ・ キャンペーンの企画書を作成する段階で、保健委員長と何度も打ち合わせを重ねた。拡大執行部や管理職の先生に企画書の説明を重ねることで、多くの方からアドバイスをもらい、保健委員長のキャンペーンへの思いを深めることができた。
- ・ キャンペーンのお知らせの放送時には、本校と市内中学校との、歯垢の状態や歯肉の状態の市内における本校の割合を示したことで、よりキャンペーンへの意識を持たせることができた。
- ・ 今回の機会を通して、歯と口の健康は感染予防の一つとして考え、実践につなげることができた。

4 成果と課題

- 3年生は歯科検診を2回実施したことで、今の自分の口腔状態を確認することができた。
- ブラッシング指導や学校歯科医の話から、歯肉炎を予防するために、自分の歯並びにあった歯のみがき方を理解する機会となり、歯と口の健康への意識の変容がみられたことで、普段の自分の生活を見直す場となった。
- 自分の歯と口の健康は、自分の歯みがきだけで管理することができるように、僅かながらも意識化につなげることができた。
- △ 歯と口の健康は大切であることは理解しているが、実践の継続化が今後の課題である。
- △ 今回のモデル校を受けることで、歯科検診とブラッシング指導の機会を設定した。染め出しを実施して、自分のみがき方を目で見て実施したほうがより効果的と思われる。しかし、コロナ禍もあり、小学校での染め出しの経験が少なく抵抗感を感じられたため、小学校との連携がより重要であると感じた。

1 実態

全校生徒 437 名のうち、受診が必要な生徒は 40.7% (178 名)、ハイリスクアプローチ生徒は全員で 20 名であった。未処置歯が 3 本以上ありの生徒は 1.3% (6 名)、「歯垢の状態 2」2.0% (9 名)、「歯肉の状態 2」1.3% (6 名) であった。特に 3 年生に要受診者が多い。定期的に歯科医へ受診している生徒もいるが、受診に至らない生徒も少なくない。毎年、数回にわたって受診勧告を行っているが、本年度は個別指導を重点的に行い歯科医への受診を勧めた。

2 ねらい

10 月中旬時点での受診率が 12.3% であった。(昨年度末の受診率は 14.2%) 早期治療につなげるために医療機関受診の催促、家庭での歯みがき改善をねらいとして集団・個別指導を実施した。

3 実践

① 集団指導

- ア 実施時期 令和 6 年 11 月 7 日～11 月 8 日
- イ 内容 未受診者に対して、検診結果の確認、受診報告書の再配布。
ほけんだより歯科指導プリントを教室に掲示。
メール配信にほけんだよりを添付し、医療機関受診を促す。
- ウ 成果 再度結果用紙を配布したことにより、保護者とともに歯科医受診をする生徒も一部見られ、受診へつながった。

② 個別指導

- ア 実施時期、対象者数 10 月下旬～11 月上旬 ハイリスクアプローチ生徒
- イ 内容
- ・ 歯垢、歯肉、齲蝕歯についての説明
 - ・ 5 月の歯科検診の受診項目を確認
 - ・ 手鏡で自分の歯や歯肉を確認
 - ・ みがけている歯みがき、歯ブラシの使い方
の説明
 - ・ ブラッシング指導 (実践)
 - ・ アンケート回答
- ウ 成果 ハイリスクアプローチ生徒に対して、小集団の個別指導を行い、歯垢・歯肉炎・う歯の進行の仕方を説明し、歯垢を残さないためのブラッシング方法を伝えることができた。指導後のアンケート用紙には、『時間をかけて 1 本 1 本を丁寧にみがきたい』といった前向きな感想を生徒から聞くことができた。



③ 学校歯科医における保健に関する指導

- ア 実施時期 学校歯科医の先生にハイリスクアプローチ生徒の取り組みについて相談し、ブラッシング指導や取り組みについてご助言をいただいた。(保護者の参加：無)
- イ 内容 医療機関としての立場から、スクリーニング検査である歯科検診後の歯科医受診を勧めていくことの必要性についてご指導いただいた。
- ウ 成果 養護教諭が保健指導をする際に、指導内容を助言いただき、生徒に伝えることができた。

●学校歯科医より 指導抜粋

① う歯について

放置をすると、治療に時間を要します。未処置歯所有者は早期の治療をお勧めしてください。

② 定期受診について

歯肉・歯垢の状況の悪化が目立ちます。年1回は歯科医院へ受診しメンテナンスを受けることをお勧めします。

③ 顎関節の状態について

種々のストレスや授業中に頬杖をついた状態、あぐら状態での長時間の携帯電話利用でも異常を引き起こします。正しい咬合が出来なくなることもあるので歯科医への受診相談が必要です。

歯科受診は、以前はむし歯治療で形態回復が主でしたが、今は正しい口腔機能の維持が主です。歯周病予防のメンテナンス、顎関節症予防の開口訓練等が大切です。

4 成果と課題

全体の受診状況を確認し、実態を把握できた。受診報告書の提出がない生徒の中にも、何名かは受診済みの生徒がいたため、未受診生徒に対して再度勧告書を配布する必要性を実感することができた。この取り組みでは、特に受診の必要がある者(ハイリスクアプローチ生徒)に対して、口腔内改善のための歯科医受診への促しやブラッシング指導を重点として行ったため、個別に行き届いた保健指導を実施することができた。

歯科医受診は、予約が必要であったり、費用がかかったりすることもあり、保護者の協力がいないことには受診に結び付きにくい。そのため、生徒に勧告書を配布する際は生徒への呼びかけとともに、保護者に対してメール配信を行うことで、受診を促す工夫をした。保健室で実施した個別の歯科指導は、昼食後に実施した。お昼の休憩時間で終わらせる必要があり、重点を抑えながら保健指導ができた。しかし、対象者の中には呼び出しをしても保健室に来室せず、ブラッシング指導を辞退する生徒もいた。養護教諭からの呼びかけだけでは動かない生徒も一部見られるため、学校歯科医の協力を得て受診を促す重要性を感じた。

1 実態

今年度の歯科検診において全校生徒 114 名のうち所見があったのは、次の 12 名である。「未処置歯」2 名（う歯 1 名、要注意乳歯 1 名）、「歯肉と歯垢の状態 2」1 名、「歯肉と歯垢の状態 1」2 名、「歯垢の状態 1」4 名、「歯肉の状態 1」3 名。歯科検診前の問診票（顎、噛み合わせ、歯並び、歯、歯肉等について）を確認すると、例年約 3 割の生徒がなにかしらの自覚症状や気になる状態があることが分かる。

歯や歯肉の状態に限らず、顎の状態や口臭を気にしている生徒も少なくない。学校歯科医が問診票の記入があった生徒ひとりひとりに様子を聞きながら、受診が必要な状態なのか、どのように対応するとよいかなど、説明をしてくださっている。

「歯肉の状態 1」「歯垢の状態 1」の生徒や自覚症状等が続いている生徒に対して、歯科の定期受診を勧めていただいている。比較的歯及び口腔内の状態が良い生徒が多く、学校歯科医に褒められ笑顔になる生徒の姿も見ることができる。欠席者対応日も設けていただいている。

歯科検診の結果を受診者全員に配布している。学校歯科医の診断結果とアドバイス、生徒の自覚症状についても明記している。また、夏休み前の三者懇談の際には、保護者に健康診断結果一覧（歯科検診結果を含む）を担任から直接渡している。年度末まで受診指導の継続が必要な生徒もいれば、自ら定期受診をする生徒もいる。

2 ねらい

- ①歯及び口腔の健康について学ぶ
- ②歯みがきの仕方について学ぶ
- ③受診（治療ならびに定期検診）の促進

3 実践

① 集団指導

ア 実施時期 5 月歯科検診事前指導、10 月生徒保健委員作成保健便り配布。

イ 内 容 各クラスで歯科検診事前問診票の配付と記入、ミニプリント配布。
歯科検診の目的と着眼点、受診のマナーについて各担任から伝える。
生徒保健委員が「咀嚼と唾液の働き」について保健便りを作成。

ウ 成 果 自己の歯科に関する健康状態を確認することができた。
落ち着いて歯科検診を受けることができた。
よく噛むこと（唾液の分泌）の工夫や効用を知ることができた。

② 集団指導ならびに個別指導

ア 実施時期 5 月～6 月 歯科検診事後指導（未受診者対応日含む）。

イ 内 容 歯科衛生士が記入した検診結果を養教が家庭報告書に転記し、その場で生徒に手渡した（個別対応に配慮）。
各担任から受診結果を家庭に持ち帰ることと、受診を勧められた生徒や気になる症状が続いている生徒は早めに受診するように伝えた。

ウ 成 果 例年は健診翌日以降に担任から各クラスで結果配布をしていたが、学校校歯科医の診察直後に手渡しすることで、生徒の関心を高め、養護教諭からも声掛けや生徒の質問に答えることができた。



③ 個別指導

ア 実施時期、対象者数

7月～9月、11月 冬休み前後

春の歯科検診において、要受診者3名、要注意者9名、処置歯8本以上で自覚症状が複数ある生徒2名の計14名。

イ 内 容（受診状況、自覚症状等の確認）

7月上旬と夏休み明けに未受診者ならびに自覚症状が続いている生徒に対して、自己管理だけではなく歯科受診が必要であることを伝えた。

7月中旬の三者懇談時の健康診断結果一覧に保護者に歯科受診依頼を記した。該当生徒の担任から三者懇談時に保護者へ紙面を渡す際に口頭でも伝えた。

11月に養護教諭が歯科受診状況と自覚症状を確認し、プリントを利用した保健指導を行った。未受診者と有症状者には受診を勧めた。

冬休み前後に未受診者と要注意者ならびに自覚症状が続いている生徒に、体調や受診状況について確認をしたうえで、体調管理の一環として歯科受診を促した。

ウ 成 果

三者懇談前に治療が完了した生徒(要注意乳歯)が1名、受診をした生徒が2名。

三者懇談後に受診をした生徒が4名。

夏休み明けの保健指導後に受診をした生徒(歯垢2歯肉2)が1名。

歯科検診で「要注意」かつ自覚症状がない生徒は、なかなか受診に至らないが、自覚症状からの受診で新たに歯が見つかり治療につながった生徒もいた。

秋と冬の個別指導で受診を望まない生徒もいれば、「受診しようかな」と答える生徒もいた。

冬休み前後は感染症も流行しやすい時期であるため、身体の玄関である口腔内を良好な状態を保つことが体調管理につながることを伝えた。とくに3年生は在学中に治療を終えられるように早めの受診を勧めたところ、治療を中断していた生徒が冬休みに再診し、自動車学校が一段落した生徒が1月に受診した。

④ 学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期、対象者数 保護者の参加の有無

9月下旬（前期期末考査期間）第2回歯科検診の実施と保健指導。

春の歯科検診後と同じ14名。保護者参加は無。

イ 内 容

事前に、養護教諭が該当者へプリントによる個別連絡と保健指導。

春の歯科検診結果、歯科受診状況、9月現在の事前問診票の確認。

学校歯科医による歯みがき状況及び歯と歯肉の状態の確認とブラッシング指導。

第2回歯科検診結果（家庭通知）と生徒へのプリント配布（歯、歯肉炎、歯みがきの留意点、口腔内の状態を書き込んだ）

ウ 成 果

夏休み前に歯科受診した生徒で、再び歯肉と歯垢が要注意の状態が分かり、再度学校歯科医の指導を受けることができた。歯科受診で口腔内の清掃を受けた後、歯肉と歯垢の状態を良好に保っている生徒は自信につながった。又、歯並び等を気にしている生徒は、とくに汚れが付着しやすい部分を知ることができた。学校歯科医による診察と具体的な指導を受けることで、曖昧にしていた歯みがきや歯科受診を意識するきっかけとなった。

4 成果と課題

学校歯科医には、毎年生徒に丁寧な指導を行っていただいている。大半の生徒は良好な状態であるが、例年、要注意の生徒については学校歯科医に定期受診を勧めていただいても自覚症状がないとなかなか受診につながらないと感じていた。今年度は、学校歯科医に2回目の歯科検診と保健指導を行っていただいたおかげで、例年に増して生徒の意識や行動変容につなげることができたと感じている。

2回目の歯科検診を通して、生徒の口腔内の状態（悪化、症状継続、経過良好等）を知ることができた。一度の受診でよしではなく、継続した管理やケアが必要であることをあらためて生徒と共に学ぶことができた。

受診結果（家庭報告書）に「要受診」もしくは「痛みがある」と明記をしていると保護者にも早めの受診を意識していただけると感じている。しかし、今年度も2月現在、要受診3名の生徒のうち未受診の生徒が1名（う歯2本）いる。今後も粘り強く関わっていくが、家庭の協力も必要である。

今後も要受診の生徒には必要な治療を受けてもらうことはもちろん、その他の生徒についても、早期発見・早期治療、予防的措置のためにも定期受診を受ける大切さを根気よく伝えていきたい。

生徒にしつこい勧告指導だと捉えられていないかと案じていたところ、卒業目前にして笑顔で「歯医者さんに行ってきたよ。」と治療や歯科医の助言を報告に来てくれた3年生が2名いた。また2年生数名が、「自由登校中に行くかもしれません。」と声をかけてくれた。こうした生徒の姿を通して、普段からのコミュニケーションで信頼関係を築くことが大切だと改めて感じた。

高校卒業後は親元を離れる生徒も少なくはない。思春期の健康管理が未来の自分の健康につながっていることを、在学中に保健室からだけではなく、教科や特別活動、部活動等においても伝えていきたい。

事前の問診票から、歯や歯肉の健康状態よりも歯並びや口臭、顎の音や筋肉痛等を気にしている生徒が多いと感じている。学校歯科医はそうした生徒に対して、思春期に生じやすいことや感じやすいことを踏まえ、本人が思う以上に心配をしなくてもよいことなども伝え安心感を与えてくださった。養護教諭としても、う歯、歯肉、歯垢の状態にばかり注視せず、生徒の気かりにも耳を傾け、食生活をはじめとする基本的な生活習慣や姿勢、感染症予防の観点からも生徒と関わっていきけるように努力していきたい。今後も学校歯科医に助言指導を仰ぎながら、保健指導の工夫を検討し、生徒や保護者へのアプローチを継続していきたい。

